
スポットライト

水原 秋護

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スポットライト

【Zコード】

Z3944A

【作者名】

水原 秋護

【あらすじ】

高篠一弥が初めて出会った『バンド』との出会いが一弥の高校生生活を変える……のか??

第一話 入学式（前書き）

スポットライト連載開始です！

楽しんで読んで頂けたらありがとうございます
ではではどうぞ

第一話 入学式

ジリリリ…

ドス…

「眠い…今何時だ…7時50分、…50分…！」
うわっ…！…と叫びながら俺は起きた。

「なんで早く起こしてくれなかつたんだよ…」
俺はあたふたと制服を着る。

「あら？？もうすっかり起きてるのかと思つたわ」
食器を洗いながら母親は言つた。

「…もういいや…朝飯は…？」
「そこにあるでしょ？？」

机の上にパンと田玉焼きがあつた

「……よし…！行つて来ます！」男の子はパンに田玉焼きを挟み、
鞄を持つて玄関に走つて行つた

「ああ一弥！今日何時から？？」

母親は玄関に來ていた

「えつと9時から…ほんじゃ行つてきますー！」

俺の名前は『高篠一弥』今日から晴れての高校生
俺はなんでもかんでも飽きっぽい性格だ。だからやる事が全く見つ
からない、つまらない人間だ。だから高校生になつたらなにか生き
がいに感じる物に出会いたい。……なんて
つて自己紹介してる場合じゃない…！急げ…！

キーンコーンカーペン...

「はあ……はあ……つ……疲れた……」

走つたおかげなんとか遅刻にならずに済んだ。

「よつ〜一弥！今日は珍しく遅刻じやないな」
笑いながら話しかけたこいつは『松田昂』だ。こいつとは小学生から付き合いで一番の親友だ。

「まさすがのお前でも入学式まで遅刻つて事はないか」
肩をたたきながら俺に言った。

「当たり前だろ！……流石に入学式は遅刻はキツいだろ……」
なんだかんだ言つてゐつちに入学式が始まつた。

「これより入学式を始めます！」

これから俺の長い長い高校生活が始まる。
……………のか？？

第一話 軽音楽部

「俺ら同じクラスだな！」

松田はよかつたよかつた！といいながら俺の背中を叩きながら言った
「ケホッ…おい…痛いって…！」

「そんなわけでよろしく…」

笑いながら自分の席に戻つて行つた。

「ふう…」

これから何しよう？てか…眠い……。

「…こんにちは…！」

な…なんだ！…！？？？

俺は何が起きたか分からなかつた。わかつたとすれば耳が痛い事だ
つた。

「な…なんだよ…君は…」俺はもちろん不機嫌そうに言った
「私は…藤森みやか…よろしく…！」

呆気に取られて

「よ…よろしく

と言つてしまつた。

「ところで君の名前は…？」

「高篠…高篠一弥だ」

「高篠君ね！わかつたわ！…あつ先生が来たみたいね」

「じゃね」と言つて自分の席に座つた。なんか俺には嵐が過ぎ去つた
感じがした。

「なんだつたんだよ…」

「ほ…ら、席に座つた…！座つた…！…点呼取るぞ。それと呼ばれ
たやつは自己紹介もやってくれ」

また自己紹介…面倒なあ…まあみんなにはしてないから別にいいか

先生が点呼を呼びそして生徒は自己紹介をしている

「はい次高篠一弥」

俺の番か…

「はい…高篠一弥です…んで先生他になんか言つんですか??
俺はみんなの自己紹介を全然聞いてなかつたからわからなかつた
「お~い聞いてなかつたのか!! まあ特になんもないんだが、入り
たい部活など言つてもいいぞ」

「入りたい部活はありません」

それを言い終えて俺は席に座つた。

『ふわあ~…ね…眠い…』心の中の俺がそう言つた。

「次、藤森みやか」

藤森は

「はい…」

と元気良く返事をした。

俺はその返事でまた眠りから妨げられた。

「藤森みやかです！入りたい部活は軽音楽部です！」

軽音楽部？？なんだその部活は？？

「これからよろしくお願ひしますね！」そう言い終えて藤森は席に座つた。

まあ興味ないな…って次は昴の自己紹介か

「松田昴！入りたい部活は軽音楽部…よろしく…！」

昴は「満悦」そうに席についた。

昴も軽音楽に入るのか～って軽音楽つてなんだ!!??

「よし自己紹介は以上だな。おつと俺の自己紹介がまだだつたな」
先生が自分の名前が『上田』だと昔はやんちゃだつたとか言つて
たけど俺には全然関係なかつた。

その時の俺は軽音楽の事を考えていた。

キーンパーンカーノン...

「よし終」—号令…高築！お前やれ！」
先生はひとりしながら俺に言った。

「ええつ……？」

「お前は話を聞いてなかつたろー！」

確かに…なにも言い返すに

「起立…礼…」

だからしようがなく号令を引き受けた。

俺は号令を終えた後昂の所にすぐさま駆け寄った。

「な…軽音楽ってなんだ？？」

そう。俺はすぐにこの答えが欲しかった。

「お前、軽音楽知らないのか？？」知らないから聞いてるんだろう

！しかも笑いながら言つた！

「やうだよ！知らないよ…」

「こり！威張るな！……まあ明日になればいやでもわかるんじやないか？？」

明日？？何故？？

「明日？」

俺はまた心に思つた事を昂に言つた。

「そう！明日明日！」

そんな俺とはひらはりこつれいひも氣分んで昂は答えた。

「わかったよ！明日だな！」

しうがない…明日まで待つしかないか…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3944a/>

スポットライト

2010年10月24日07時59分発行